



えがお



冬の天の川いがや

- 院長より新年のご挨拶
- 医療ミニ知識 バセドウ病

美しく生きる。

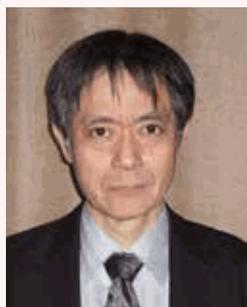


笑顔あふれる優しい病院

松本市立病院の理念

地域の皆様から信頼され、全職員が患者さんとともに歩み、
患者さん中心の「満足と安心」・「権利と安全」に
配慮した医療を実践します。





あけましておめでとうございます

松本市立病院 院長 高木洋行

謹んで新春のお慶び申し上げます。

今年は戌年。あてがわれた動物は犬、人とのつきあいも古く、忠実で愛情深く親しみ深い存在です。本来の戌の意味は、作物を刈り取りまとめ締めくくる事を表し、転じて自らの実を落として本体の木を守る意味もあるようです。つまり新しい芽吹きに備える干支と言われています。

まさに新病院誕生に備えるとても重要な年を迎えました。昨年から検討してきました新病院の基本計画がまもなく完成します。昨年三月に新松本市立病院建設検討委員会から「松本市立病院建設に関する提言」がまとめられました。それを受けて、院内外の建設委員会で基本計画の検討が重ねられてきました。作成のプロセスは議会を通して公にされ、直接地域の皆様と意見交換をする場ももうけさせていただいてきました。詳細はここでは触れませんが、当院の使命ともいえる三つの基本方針（①急性期と回復期を担う②命の誕生から最期までを一生懸命みる③自治体病院として感染対策、災害救急辺地医療等の政策医療を担う）が遵守され実現できる病院が基本計画の骨格であります。

医療や福祉の最大の対象層となる後期高齢者がピークになるのが2025年、その2025年問題に向けて地域包括ケアシステムの構築が求められています。1人1人の住人を中心に、医療介護福祉ばかりでなく行政や住民までが連携しながら関わっていきます。病院はその一端を担っていきます。そこにある姿は、疾病を治すことだけでなく、健康維持や増進にも大きく関わっていく病院が見えてきます。今回の新病院の話が地域づくり・街づくりにも寄与できればと考えています。

昨年は外科系の先生が相次いで着任されました。1月には脊椎外科の専門医清水医師が着任しました。腰痛などに対するより専門的な治療や手術が提供できるようになりました。4月には泌尿器科石川医師が着任しました。中断されていた泌尿器科の入院治療や手術が再開されています。8月には産婦人科医田村医師が着任しました。より安全で安心な出産のための体制が整いました。また婦人科疾患の腹腔鏡手術が増えています。超音波などの診断装置、最先端の腹腔鏡装置等の整備も行っています。急性期と回復期を担う西部地区の中核病院としての体制をより充実させていきます。今年も「笑顔あふれる優しい病院」松本市立病院をよろしく願います。

よろしく
願います!



着任医師

平成29年10月1日付
小児科医師 佐渡智光

退任医師

平成29年9月30日付
小児科医師 齊藤孝昌

小児科医師
異動のお知らせ



病院祭へご来場 ありがとうございました!

平成29年10月28日(土)に「地域とともに 笑顔と一緒に」をテーマに、多くの方のお力添えをいただき、第10回目の病院祭を開催しました。

あいにくのお天気ではありましたが、幅広い年齢層にわたって、多くの方にご来院いただきました。松本市立病院を知っていただく機会になったなら幸いです。

ご来場頂いた皆様、ステージに出演して頂いた皆様、販売に協力頂いた地域の皆様、ボランティアの皆様、お力添えを頂いた全ての皆様に対し、職員一同心より御礼申し上げます。
ありがとうございました!

病院祭実行委員長 室賀 真智子



日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審しました

当院として4回目となる病院機能評価認定のため、9月28日～29日の2日間に渡り、訪問審査が行われました。

「病院機能評価（評価種別：一般病院2（3rdGVer1.1）」とは、病院が提供する医療（患者中心の医療、良質な医療・看護・療養環境・医療安全など）や、病院組織全体の運営管理（組織運営、労務管理、職員教育、経営管理・危機管理など）について、約350の視点（評価の要素）からの審査を行うものです。

当日は5名の審査員が、4つの評価対象領域（書類審査・面接調査・ケアプロセス調査・部署別訪問調査）からなる全89項目について、当院の状況を確認しました。

現在審査中ではありますが、11月に「適正に行われている」との中間的な結果報告が届いており、1月には最終審査結果が通達される予定です。



平成29年度 地域医療連携会議

平成29年11月2日に、梓水苑にて地域医療連携会議が開催されました。

近隣の医療施設から25名の先生方にご出席頂きました。

始めに当院院長より、病床機能と病院の展望についての説明を行い、引き続き平成29年に着任した、産婦人科科長・整形外科科長・泌尿器科科長から、それぞれの診療科や専門分野についての紹介をしました。

その後に行われた意見交換会では、参加された方々一人ひとりから、病院への要望など貴重なご意見を頂きました。頂いたご意見をもとに、更に地域完結型医療を目指して行きたいと考えております。



当院からの紹介



産婦人科科長 **田村医師**
腹腔鏡下手術を始めました。



整形外科科長 **清水医師**
脊椎疾患の手術を行っています。



泌尿器科科長 **石川医師**
泌尿器疾患一般の手術を行っています。

地域医療連携室 副室長 山崎 徳男

◆ バセドウ病とは

バセドウ病は、甲状軟骨（のどぼとけ）のやや下方にある甲状腺が、甲状腺ホルモンを過剰に分泌してしまう病気です。本来は自分の体を守るために働く免疫が、自分の甲状腺を攻撃してしまうためにおこります。



◆ 症状は？

甲状腺が大きく腫れたり、眼が前方に出るなどの症状が現れます。また、甲状腺ホルモンの分泌過多により、体の新陳代謝が亢進し、動悸や手の震え、食欲の亢進、体重の減少、下痢などの症状も出てきます。

◆ 診断は？

バセドウ病に特徴的な症状があり、血液検査で甲状腺ホルモンの値が高く、さらにバセドウ病に特有の抗体が検出されれば、バセドウ病が強く疑われます。これに加えてアイソトープ検査でバセドウ病の所見があれば、診断は確定します。

◆ 治療は？

一般的には甲状腺ホルモンの合成を抑える薬による治療が行われます。約半数の方は、飲み続けることにより甲状腺の機能が安定し、薬の服用が必要ない状態になります。しかし薬の中止によりその後再発し、薬を飲み続けなければならない場合もあります。その他に、放射線を利用して治療するアイソトープ治療や、手術による治療があります。アイソトープ治療や手術は、効果が確実な反面、治療後に甲状腺機能低下症になる可能性が高く、生涯にわたり甲状腺ホルモン剤の内服が必要になることがあります。それぞれの治療法に長所と短所がありますので、それをふまえた上で、主治医と相談しながら自分に合った治療法を選ぶことが大切です。



部署 紹介

産婦人科外来

産婦人科外来は、医師 5 名と助産師 4 名（4 階西病棟所属）受付 2 名で、日々の業務を行っています。

産科と婦人科の 2 診で診療しており、いずれも完全予約制です。

婦人科は、女性生殖器の疾患・婦人科に関するお困りの症状のある方の検査や治療を行っています。8 月より腹腔鏡下手術を再開し、手術件数も増えていきます。また、女性の医師が 2 名おります。女性医師を希望され、受診する方もいらっしゃいます。羞恥心を伴う内診台での診察のため、安心して検査が受けられるよう声かけしています。

産科は、安全に出産していただくための妊婦健診や検査を行っています。また、健康管理科（健診・ドック・各市町村）から依頼を受けて、子宮癌検診もしています。

産婦人科は、診療対象となる方が、妊婦で健康な方と、婦人科疾患に罹っている病気の方がいます。その中でも、望む妊娠・望まない妊娠・流産された方や、望んでいるのに授からない方もいるため、診察状況だけではなく待合での様子も、患者さんの心情を考慮した対応をしております。

産科においては助産師による保健指導を行っています。妊娠中は体重管理や食事面など、日常生活の中で気をつけなければいけないことがたくさんあります。安心して妊娠生活を送れるよう、指導していく役割があります。

妊娠出産に関する相談、経済面での心配や育児のサポートがないなどの様々な相談にも乗っております。相談内容によっては、その方の問題解決にむけて、メディカルソーシャルワーカーや地域の保健師、行政（市のこども福祉課など）関係機関と連携を取り、関わっています。

様々な思いで受診される患者さんへ寄り添い、安心して受診していただけるよう努めてまいります。

助産師 藤森 愛子



病院建設事業進捗状況について

新しい病院の姿を具体的に示す「松本市立病院建設基本計画(案)」がまとまりましたので、基本計画(案)の概要をご紹介します。

基本計画(案)の概要

1 新病院の目指す姿

○地域医療を支える病院	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に求められる質の高い医療が提供できる施設 ・機能的で使いやすい施設 ・災害発生時の機能を強化した施設 ・市立診療所や会田病院とのネットワーク化
○保健・介護・福祉分野と連携した病院	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携を意識した施設
○患者中心の「満足と安心」・「権利と安全」に配慮した病院	<ul style="list-style-type: none"> ・患者アメニティの確保と患者プライバシーの保護 ・ユニバーサルデザインの導入とバリアフリー化 ・利便性への配慮 ・相談機能の充実
○医療従事者に選ばれる病院	<ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい魅力的な施設環境の整備 ・教育研修機能の充実
○将来にわたり安定的に持続可能な病院	<ul style="list-style-type: none"> ・医療環境変化への対応とライフサイクルコストの低減 ・環境との調和 ・ICT活用等による合理的な経営

2 事業概要

(1) 病床数

病床数については、松本市立病院建設検討委員会から「現在の許可病床数215床の範囲で検討すること」として提言を受けていますが、地域医療構想等を踏まえる中で、新設する緩和ケア病棟を含め、210床以内に縮小する方向で見直します。

(2) 施設規模

項目	概要
敷地面積	30,000㎡程度
延床面積	18,000㎡程度
駐車場台数	550台程度
併設施設	在宅支援センター（訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所）、院内保育所

3 事業費（素案）

（単位：百万円）

事業費区分	内容	金額
建設工事	病院建設工事費、外構工事費、設計、工事監理費等	6,680
医療機器等	医療機器等購入費	2,500
その他	用地費、移転費	1,120
合計		10,300

※基本計画(案)の詳細は松本市立病院ホームページ <http://www.hp-hata.com/> をご覧ください。

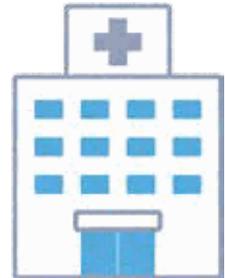
4 今後の予定

(1) 基本計画の策定

市民へのパブリックコメントを経て、平成29年度中に基本計画を策定します。

(2) 病院建設用地の確保

平成31年度中の病院建設用地の確保に向けて、各関係組織と調整を進めてまいります。



第1回松本マラソン 平成29年10月1日

第1回松本マラソンに当院からも15人が参加し、記念すべき初めての大会において13人が完走しました。



松本大学生・松本市議会・松本市立病院との意見交換会

テーマ「市立病院と西部地域のまちづくりについて」

平成29年10月24日（火）、松本大学の講堂にて、松本大学生・松本市議会・松本市立病院との意見交換会が開催されました。総合経営学部の3年生30人、市議会議員13人、病院職員3人が参加し、以下の観点から意見交換を行いました。

・市議会の概要 ・病院の現状報告 ・学生からの提言

学生からの提言として、新病院には高齢者の方が大勢通院することになるため、買い物ができコミュニケーションができるカフェを設置してほしい、とのご意見を頂きました。